

2027年国際園芸博覧会 (GREEN × EXPO 2027) について



公益社団法人国際園芸博覧会協会 広報部

1 はじめに

2027年3月から神奈川県横浜市で、花・緑・農・食の国際園芸博覧会を開催します。A1クラスの博覧会は、日本では1990年「大阪花の万博」以来、37年ぶりの開催であり、首都圏で開催される初めての万博です。

2 国際園芸博覧会とは

国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造等を目的に、世界各国で開催されてきた博覧会です。

開催にあたっては、国際的レベルで園芸生産者の利益を図り、園芸技術の向上を図るために設立された非営利団体である国際園芸家協会（以下、AIPH）の承認が必要です。

国際園芸博覧会には開催期間や会場の面積等によりA1、B、C、Dの4つのカテゴリーが設けられ、最上位であるA1クラスの開催に当たっては、AIPHの承認に加え、「国際博覧会に関する条約」に基づき設置されている博覧会国際事務局（以下、BIE）の認定が必要です。

そのため本博覧会は、日本においては、2005年の愛知万博や2025年開催予定の大阪・関西万博に続いて開催される国内7回目のEXPO（万博）となります。

なお、前述のとおり、日本で開催されるA1クラスの国際園芸博覧会としては、1990年に大阪の鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会（大阪花の万博）以来、37年ぶり2度目の開催となります。大阪花の万博はアジア初のA1クラスの国際園芸博覧会であり、約半年間の会期で2,300万人以上の参加者数を記録しま

した。これを契機にいわゆる“ガーデニングブーム”が起き、花壇苗の出荷量が増加するなど産業振興に大きな効果をもたらしました。

3 開催テーマ「幸せを創る明日の風景」

本博覧会は、地球温暖化等、世界規模の環境変動を踏まえ、自然が有する機能を活用し、花や緑との関わりを通じて自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会を、新たな明日の風景として可視化していくことを目指しています。

SDGs達成年の3年前に開催される国際園芸博覧会として、持続可能な社会の形成に向けた取組の成果を確認し、「新しいグリーン万博」の姿を世界と共有することで、SDGs達成をより確実なものとする機会にしたいと考えています。

4 今後について

博覧会協会は、2023年1月に、博覧会開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会基本計画」を策定・公表しました。この基本計画に基づき、各事業を推進するとともに、各国政府に対する参加招請や出展者・支援者・来場者に向けた機運醸成等の取り組みなど、2027年の開催に向けた準備を進めています。

また、本年9月には、公式アンバサダーが就任するなど、徐々に一般への訴求力の高い情報が発信できる段階となっています。これらの情報は、公式ウェブサイトや公式SNSで随時発信していきますのでぜひご活用ください。

2027年国際園芸博覧会の概要

- 名 称：2027年国際園芸博覧会
International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan
- 会 場：旧上瀬谷通信施設（神奈川県横浜市）
- 開催期間：2027年3月19日（金曜日）～ 2027年9月26日（日曜日）
- 博覧会区域：約100ha（内、会場区域80ha）
- 参加者数：1,500万人（地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む）
有料来場者数：1,000万人以上
- 資金計画：会場建設費320億円（財源：国、地方公共団体、民間による負担）
運営費360億円（財源：入場料、営業権利金等）



公式ウェブサイトQRコード



会場イメージ図（2023年9月時点）